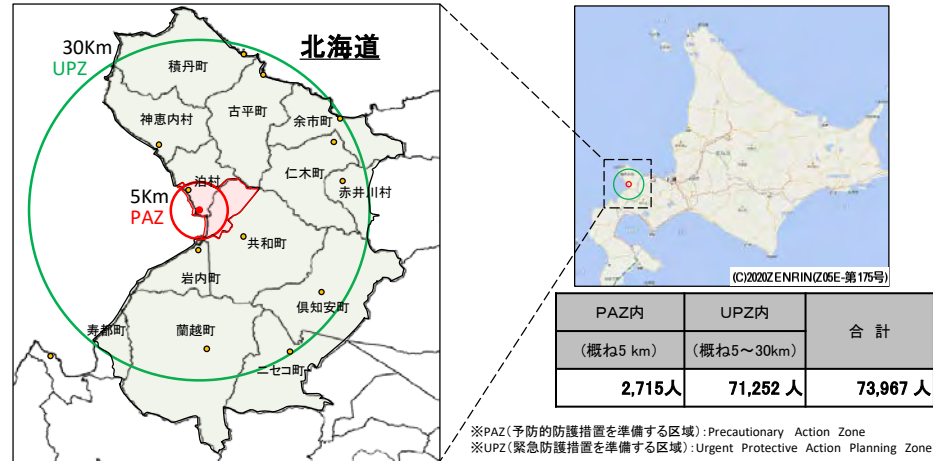


# 資料3 泊地域の緊急時対応（概要版）（案） ①原子力災害対策重点区域・広域避難先

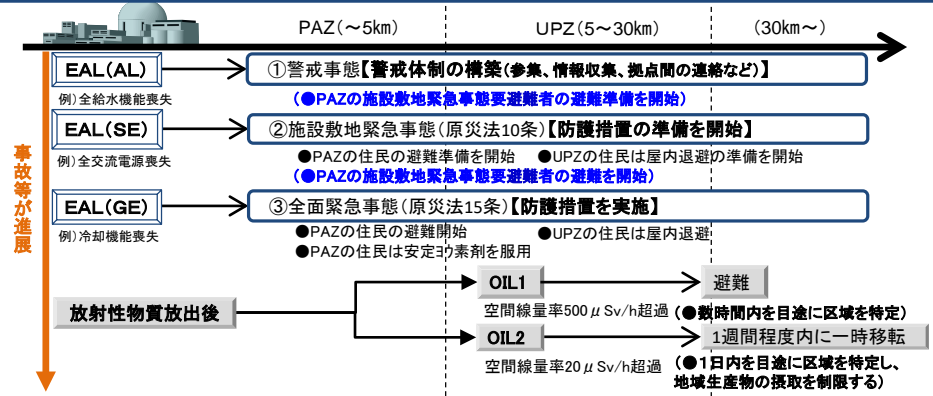
## 1. 泊地域の原子力災害対策重点区域

- 泊地域における原子力災害対策重点区域(概ね半径30kmの範囲)の人口は73,967人(令和2年4月現在)。
- PAZ内の人口は泊村1,313人、共和町1,402人。
- UPZ内の人口は関係13町村71,252人。



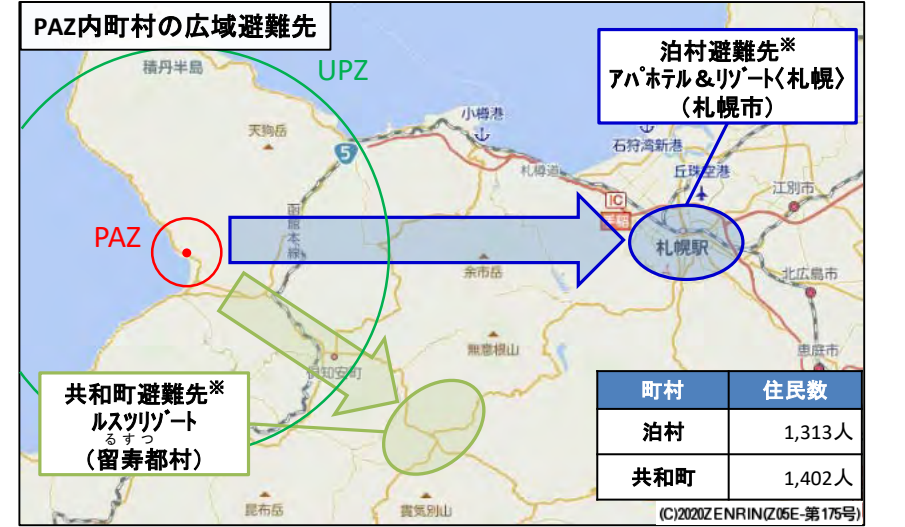
## 2. 原子力災害対策指針における緊急事態の防護措置の考え方

- 緊急事態の初期対応段階は放射性物質放出前から原子力施設の状況等に応じて、放射性物質放出後は緊急時モニタリングの結果に基づいて防護措置を実施。
- ① EAL(Emergency Action Level)による初期対応段階における防護措置  
原子力施設の状況等に基づく緊急事態区分を導入し、その区分を判断する基準(EAL)を設定。EALに基づき、避難等の防護措置を実施。  
※施設敷地緊急事態要避難者の避難は、通常以上の時間がかかるため、EAL(SE)の段階から避難を開始する。ただし、避難の実施により健康リスクが高まるおそれのある者は遠へい効果の高い建物等に屋内退避する。
- ② OIL(Operational Intervention Level)による放射性物質放出後における防護措置  
国はEAL(SE)の段階で緊急時モニタリングセンターを立ち上げ、モニタリングを開始。放射性物質放出後、防護措置の実施基準(OIL)に基づきモニタリング結果から区域を特定し、PAZ外の住民の防護措置を実施。

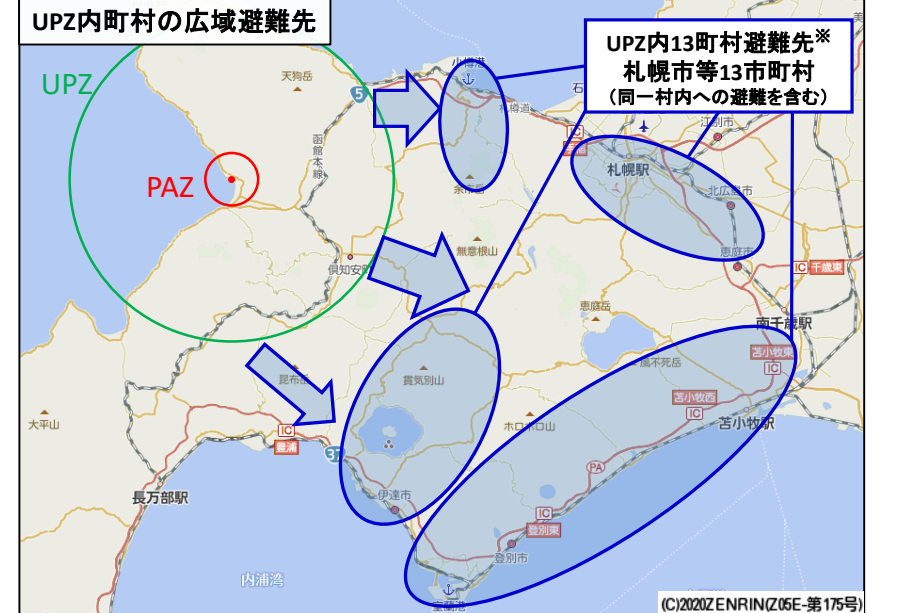


## 3. PAZ及びUPZの各自治体における広域避難先

- PAZ内、UPZ内の各町村の住民の避難先は、札幌市などの道央圏内で確保。
- 避難先は、良好な環境のもとで避難生活を送れるよう、ホテル、旅館等を指定。
- 自然災害等を考慮して、町村毎に避難先までの避難経路を複数設定。



※不測の事態により上記避難先に避難できない場合は、北海道が調整の上、近隣地域で代替避難先を確保



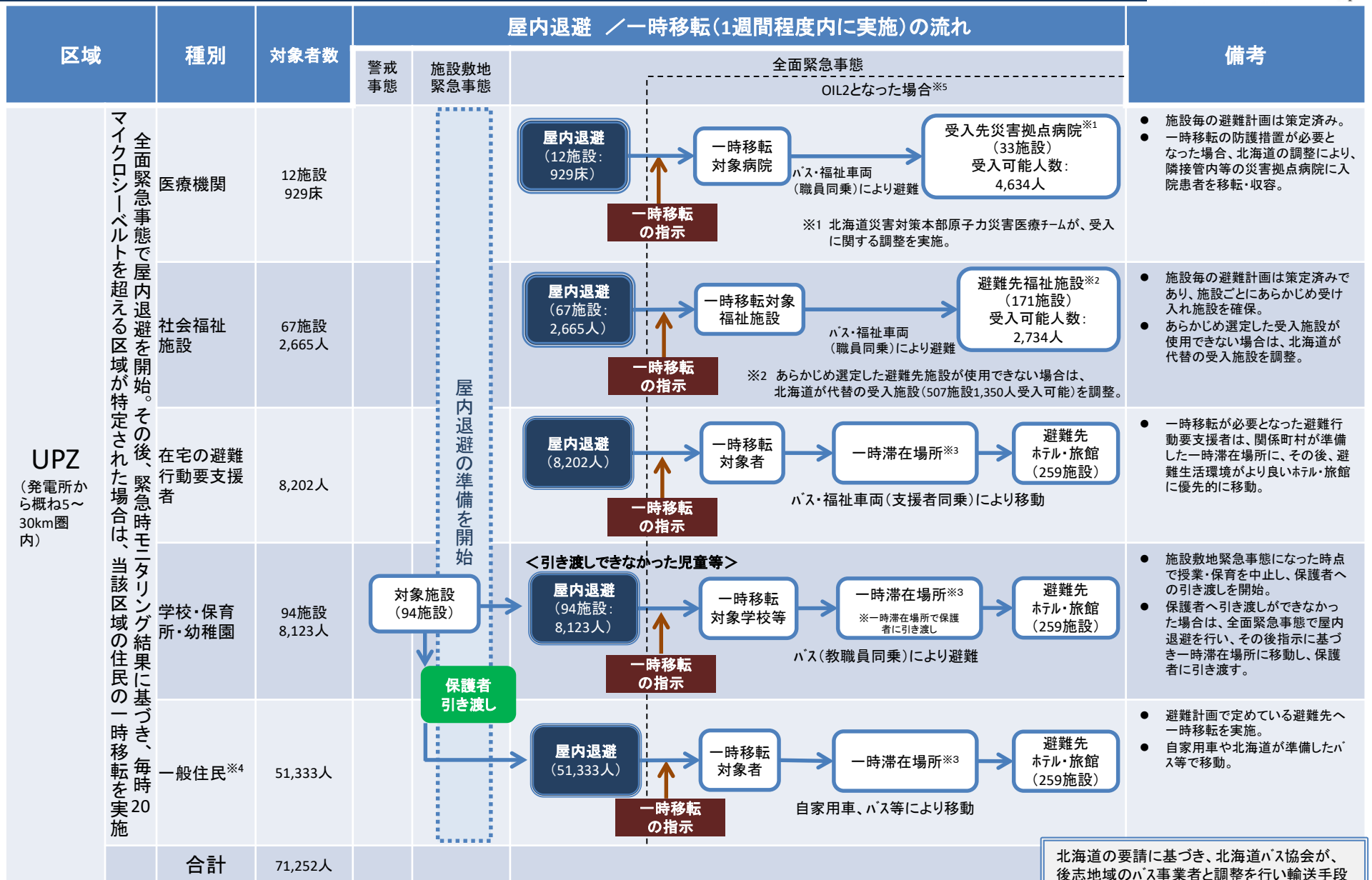
※不測の事態により上記避難先に避難できない場合は、北海道が調整の上、近隣地域で代替避難先を確保

# 泊地域の緊急時対応 (概要版) ②PAZにおける避難・屋内退避の考え方

区域	種別	対象者数 (支援者数)	避難等の流れ			備考
			警戒事態	施設敷地緊急事態	全面緊急事態	
PAZ (発電所から概ね5km圏内)	施設敷地緊急事態(原災法10条)で避難開始	社会福祉施設	泊村 100人 (48人) 共和町 (対象施設なし) 合計 100人 (48人)	<b>対象施設</b> 泊村 (2施設:100人) 共和町 (対象施設なし) 合計2施設 <避難可能な者:100人> バス4台、福祉車両16台により避難 <避難の実施により健康リスクが高まる者> 自施設内(放射線防護対策施設)	社会福祉施設 (黒松内町内1施設)  放射線防護対策施設 (泊村内2施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の避難計画において、避難先施設を設定。</li> <li>避難の実施により健康リスクが高まると判断される場合は、輸送等の避難準備が整うまで自施設内で屋内退避を実施。</li> </ul>
		在宅の避難行動要支援者	泊村 20人 (20人) 共和町 35人 (35人) 合計 55人 (55人)	<b>対象者</b> 泊村:20人 共和町:35人 <避難可能な者:52人> 支援者の自家用車等で移動(泊村9人) 支援者と共に徒歩、自家用車等で移動(泊村11人、共和町32人) バス4台(泊村1台、共和町3台)により避難 <避難の実施により健康リスクが高まる者:3人> 福祉車両3台により移動	<泊村の場合> 一時滞在場所 札幌市南区体育館 避難先 アパホテル&リゾート(札幌)  <共和町の場合> 避難先(兼一時滞在場所) ルスツリゾート  放射線防護対策施設※1 泊村の場合:特別養護老人ホームむつみ荘、養護老人ホームむつみ荘 共和町の場合:みのりの里共和、共和町保健福祉センター ※1 放射線防護対策施設には、避難行動要支援者のほか、その支援者等が入る予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊村の避難行動要支援者は、あらかじめ定められた一時滞場所:札幌市南区体育館を経由して、避難先:アパホテル&amp;リゾート(札幌)へ避難。</li> <li>共和町の避難行動要支援者は、あらかじめ定められた避難先(兼一時滞場所):ルスツリゾートへ避難。</li> <li>避難の実施により健康リスクが高まる者は、近隣の放射線防護対策施設へ輸送。</li> </ul>
	学校・保育所・幼稚園	泊村 144人 (35人) 共和町 154人 (34人) 合計 298人 (69人)	<b>対象施設</b> 泊村 (3施設:144人) 共和町 (3施設:154人) 合計6施設 <泊村の場合> 一時滞場所 札幌市南区体育館 バス6台により避難 <共和町の場合> 避難先(兼一時滞場所) ルスツリゾート バス6台により避難	避難先 アパホテル&リゾート(札幌)  避難先(兼一時滞場所) ルスツリゾート	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊村の学校・保育所の児童等は、警戒事態になった場合、避難準備を開始。一時滞場所:札幌市南区体育館に移動後、保護者に引き渡す。</li> <li>共和町の学校・保育所・幼稚園の児童等は、警戒事態になった場合、避難準備を開始。避難先(兼一時滞場所):ルスツリゾートに移動後、保護者に引き渡す。</li> </ul>	
	(原災法15条)で避難開始	一般住民	泊村 1,008人 共和町 1,169人 合計 2,177人	<b>一般住民の避難準備を開始</b> 対象者 泊村:1,008人 共和町:1,169人 <自家用車で避難する者> 自家用車で移動(588人) <バスで避難する者> 徒歩等で移動(420人) 徒歩等で移動(1,169人)	<泊村の場合> 一時滞場所 札幌市南区体育館 避難先 アパホテル&リゾート(札幌) バス16台により避難 <共和町の場合> 避難先(兼一時滞場所) ルスツリゾート バス34台により避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊村の住民は、自家用車又はバスにより、あらかじめ定められた一時滞場所:札幌市南区体育館を経由して、避難先:アパホテル&amp;リゾート(札幌)へ避難。</li> <li>共和町の住民は、バスにより、あらかじめ定められた避難先(兼一時滞場所):ルスツリゾートへ避難。</li> <li>バスでの避難に必要なバスは、北海道が「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づき、北海道バス協会に要請。</li> </ul>
	合計※2	2,630人 (172人)				

※2 合計は、支援者等を含むため、PAZ内人口とは異なる。

# 泊地域の緊急時対応（概要版） ③UPZにおける屋内退避・一時移転の考え方



※3 赤井川村については、避難先施設(キロリゾート)が一時滞在所の機能を有する。  
 ※4 一般住民の対象者数は、UPZ内人口から避難行動要支援者の数を引いた数字である。  
 ※5 UPZ内の全住民のうち、緊急時モニタリング結果に基づき、毎時20マイクロシーベルトを超えると特定された区域の住民は、一時移転を実施。一時移転に際しては、避難退域時検査を受けた上で、一時滞在所において受付を行い、避難先のホテル・旅館等へ移動。

北海道の要請に基づき、北海道バス協会が、後志地域のバス事業者と調整を行い輸送手段を調達。不足する場合は隣接地域、さらに不足する場合は北海道全域のバス事業者と順次調整を行い輸送手段を調達。